

わが村は美しく

岩見沢市編

第十二回 優秀賞 特定非営利活動法人
山のない北村の輝き



旧美唄川をカヌーで下り、地域の地形や環境を楽しみながら学んでいる



北村産の米粉と岩見沢産の小麦粉を使用した「かっぺおじさんクッキー」。岩見沢市の菓子店に依頼して商品化した。

お話をしてくれた人



特定非営利活動(NPO)法人 山のない北村の輝き
事務局長 島 一雄 さん

Vol. 217
「水辺の楽校」を拠点に
北村地区の歴史を語り、
新たな歴史を創造する活動

地域資源をフルに活用し
世界に誇れる地域づくりを

札幌の北東部に位置する岩見沢市北村。一九〇〇年に岩見沢村から分村し、二〇〇六年岩見沢市に編入合併され、一〇六年の歴史を閉じた。

北海道の市町村名はアイヌ語に由来する場合が多いが、北村は、開拓者である北村雄治の姓が村名となった。また、石狩川の洪水に苦しみ続け、戦後最大は「五六水害」と呼ばれる昭和五六年におきた川の氾濫で、村の面積の三分の二が水没するほどの被害だった。

この地で、旧美唄川を中心に活動しているのが「特定非営利活動(NPO)法人山のない北村の輝き」だ。事務局長の島雄さんは「北村地区には鉄道がない、国道がない、山がないと、ない

なづくしなんです。そのデメリットとも見えるこの地域を逆に魅力にしようと活動を始めました」と話す。その言葉に悲壮感はなく、誇らしげだった。

二〇〇四年、地域づくりを目的としたNPO法人を設立。地域の風土を学び、河川利用と環境の保全、地場産業の活性化など多面的に展開している。

主な活動は、旧美唄川の流域で展開する「水辺の楽校」。川辺の植樹としてシラカバやハンノキ、サクラなどを植え、緑の回廊を目指している。さらに河川周囲のごみ拾い、河川調査も毎年行っている。

「昨年は地元の小学生低学年が参加し、カヌーに乗って川から陸を眺める河相調査を行いました。いつもと逆の景色が見え、新たな発見もあります。昼食には地元食材を使ったカレー

第11回コンクール



参加しよう、広げよう、いいもの伝えよう
「わが村は美しく－北海道」運動

岩見沢市北村へは、JR函館本線岩見沢駅からバスが運行。北村温泉ホテル宿泊者にはホテル専用の送迎バスも。詳しい観光情報は、岩見沢市観光協会のホームページを参考にしてください。

お問い合わせ／事務局 ☎080・5587・8092(担当:島)



4
イカダで川下りを体験する小学生。川と親しみながら洪水の歴史なども学べる機会を醸成。



3
NPO法人が製作した冊子。「北村三兄弟物語」は北村温泉ホテルのHPのバナーから読むことができる必読の一篇。



8
北村小学校の四年生が、副読本をもとに昨年の学習発表会で劇を披露した。



7
北村環境改善センターの中にある郷土資料コーナー「北村の記憶」。歴史や産業がコンパクトにまとめられている。



6
かつて羊を飼養していた歴史を知るきっかけとして、活動後にはジンギスカンをみんなで味わう。



5
旧美唄川河川清掃は、昨年まで25回も継続実施している。ごみ拾いの後のランチタイムも楽しみの一つ。

をしながら、農作業、収穫体験ができる企画や、自然景観を堪能するカヌー体験などのツアー、ガイドによる北村地域の

み進むほど引き込まれた。そのほかにも農泊やキャンプ

川への思いはもちろんだが、地域の歴史に対する情熱もあふれている。二〇二三年に、歴史ガイドブック『北村の記憶』川といきる・村をひらく・農をおこす』を発行し、五〇ページにわたって北村の歩みを紹介。

歴史ガイドブックや副読本で故郷を愛する心も醸成

を提供。ごみ拾い活動と合わせてジンギスカンを食べるなど、かつて羊を飼養していた歴史や地域農業も学べるようなアイデアを駆使しています」。

「北村の輝き」の名の通り、活動している人たちの顔がキラキラと輝き、郷土愛にあふれていた。

取材の最後に、郷土資料コーナー「北村の記憶」を訪れた。北村三兄弟の紹介や、大正時代から羊の毛を使った織物や羊肉料理法なども解説しており、当時の農業への取り組みを知った。「今年には設立二〇周年を記念して毎年八月に開かれている『きたむら田舎フェスティバル』で大玉の花火を打ち上げる予定です。地域人口が減っても、地域に何かを残したい、成長した子どもたちが再びここに帰ってきたい」と熱く語る島さん。

歴史見学。河川の間伐樹木を使った炭焼き小屋での炭づくりも手掛ける。冬には雪原をウォーキングするスノーシュー体験やわかさぎ釣り体験など、一年中季節ごとに楽しめる魅力的なアクティビティーが盛りだくさん。海外客も積極的に受け入れ、地域内外での交流を図っている。

「わが村は美しくー北海道」運動は、北海道の農林水産業をより豊かにするために、2001年にスタートしました。2年に1度コンクール形式で優秀な活動を表彰しています。コンクールは1年目に優秀賞、奨励賞を表彰し、2年目に優秀賞から大賞を決定。地域の資源を掘り起こし、地域の活力とすると同時に活動を広くアピールし、豊かな北海道を未来へと受け継いでいくことを目的としています。

お問い合わせ／国土交通省 北海道開発局 農業水産部農業振興課 ☎ 011・709・2311(内線5685)

